

清瀬市立学校における 水泳指導基本指針

— 民間プール施設の活用を見据えて —

清瀬市教育委員会
令和5年2月

■ 目次

はじめに

第 1 章 基本方針策定の背景～本市の水泳指導の現状と課題～…………… P 4

第 1 節 清瀬市立学校における水泳指導の現状

第 2 節 令和 4 年度「研究指定校」の「指導面」の状況

第 3 節 令和 4 年度「研究指定校」の「財政面」の状況

第 4 節 その他

第 2 章 今後の水泳指導の基本的な考え方…………… P 13

第 1 節 基本的な考え方

第 2 節 重視すべき指導の方向性

第 3 節 根拠法令等

第 4 節 期待される効果

第 3 章 実施計画…………… P 19

第 1 節 実施計画

第 2 節 年次計画

第 3 節 移行期における研究の継続

第 4 章 水泳指導の具体的な展開…………… P 22

第 1 節 清瀬市立学校における民間プール施設の活用

第 2 節 推進体制

第 3 節 実施にあたっての各学校における配慮事項

資料 …………… P 25

■ はじめに

本市では、「子供が育つ 市民が育つ まちも育つ 清瀬の教育」をスローガンに「第2次清瀬市教育総合計画 マスタープラン基本構想」の実現に向け、多方面からの御意見等を頂きながら、その進捗を図ってきました。しかし、ここ数年のコロナウイルス感染症の拡大や近年の不況等、予測が困難な状況の中で、基本構想を上回る創造力を働かせた施策が求められる状況になっております。この度は、その一環として、本市の水泳指導の在り方について、様々な方面の方々から御意見を賜り、本市の今後の水泳指導の方向性を本書にて、市民の皆様にお示しすることとなりました。

まずは、本指針の策定に至った経緯について、述べさせて頂ければと思います。

本市の水泳指導は、昭和37年の清瀬中学校のプールの設置を皮切りに、全校にプールを設置し、小学校における「水遊び・水泳運動」及び中学校における「水泳」（以下、小学校、中学校ともに「水泳」として記載）について、学習指導要領が目指す、指導の実現を図って参りました。しかし、近年では従来の雨天等による水泳指導の中止だけでなく、熱中症対策も含めて、水泳指導の中止が度重なることも多く、計画的に十分な実施ができていない状況にあります。

また、近年では、各校のプールの老朽化が激しく、その修繕のための財政的な負担も大きいところから、単に今までの水泳指導を継続するのではなく、一度立ち止まり、今後の水泳指導の在り方について見直すこととしました。その見直しの中で、本市の小学校1校と中学校1校を、「民間プール施設を活用した水泳指導研究指定校」に指定し、研究を進めることとしました。この研究では、民間プール施設を活用した指導面、財政面での成果と課題が浮き彫りとなりました。この研究結果を受け、様々な方面の皆様に御参集いただき、この度の水泳指導基本指針の策定に至った次第です。

本市の水泳指導は、大きな過渡期にあり、今までにない、発想と創造力をもって、これまで以上の水泳指導の充実を実現したいと考えております。市民の皆様におかれましては、この度の本書の取組について、御理解と御協力を賜れば幸いです。

結びに、本市立学校における水泳指導基本指針の策定にあたり御協力いただきました、武蔵丘短期大学名誉学長兼順天堂大学名誉教授川合武司様をはじめ、「清瀬市立学校における水泳指導の在り方検討委員会」委員の皆様、並びに「清瀬市立学校における民間プール施設を活用した水泳指導単元計画作成部会」部員の皆様に深く御礼を申し上げ、御挨拶とさせていただきます。

令和5年2月

清瀬市教育委員会
教育長 坂田 篤

第1章

基本指針策定の背景 ～本市の水泳指導の現状と課題～

■ 第 1 節 清瀬市立学校における水泳指導の現状

※太線で囲った学校（清瀬第四小学校、清瀬第四中学校）は、民間プール施設を活用した水泳指導研究指定校

1 令和 4 年度の水泳指導の実施状況（各学年のおおよその年間指導回数）

※ 1 回の指導時間は、小学校 45 分、中学校 50 分（含む移動・更衣時間）で、以下、1 単位時間として表示

(1) 小学校 (回)

	清小	芝小	三小	四小	六小	七小	八小	十小	清明小
R 4	6~8	8~14	6~8	11~13	10~12	10~12	6~10	4~8	3~6

(2) 中学校 (回)

	清中	二中	三中	四中	五中
R 4	12	7~8	7~11	12	8~11

2 令和 4 年度の水泳指導の中止の回数（各学年の天候等によるおおよその中止回数）

(1) 小学校 (回)

	清小	芝小	三小	四小	六小	七小	八小	十小	清明小
R 4	1	1~3	3~4	0	2~4	2~4	1~6	2~4	2~5

(2) 中学校 (回)

	清中	二中	三中	四中	五中
R 4	1	0	2	0	3

3 令和 4 年度の体育・保健体育の授業時間外における水泳指導の実施状況

(1) 小学校（夏季休業中の水泳教室） (回)

	清小	芝小	三小	四小	六小	七小	八小	十小	清明小
R 4	0	0	0	0	0	0	0	7*	0

※清瀬第十小学校 7 回の内、中止 3 回。他校については、新型コロナウイルス感染症対策により中止。

(2) 中学校（清瀬第五中学校は水泳部の活動） (回)

	清中	二中	三中	四中	五中
R 4	0	0	0	0	25*

※清瀬第五中学校 25 回の内、中止 3 回。その他の中学校においては近年、夏季休業中の水泳教室は実施していない。

(3) 地域行事等での学校プール施設の活用

小・中学校ともに地域行事等での活用はなし。

■第2節 令和4年度「研究指定校」の「指導面」の状況

1 各校の「指導面」の状況

(1) 研究の概要

① 目的

清瀬市立学校における教育課題等の解決を図るため、指導内容や方法、組織運営の在り方等の工夫・改善を行うなど、先進的に研究開発等に取り組む研究を行う。

② 期間

令和4年4月1日～令和5年3月31日まで

③ 研究内容

民間プール施設を活用した水泳指導の実施・研究を行い、指導面及び財政面からの成果と課題の洗い出しを行う。

④ 研究指定校

清瀬第四小学校、清瀬第四中学校

⑤ 委託先及び委託内容

ア 委託先

民間施設	場所	市役所からの距離	民間プールの大きさ	収容人数
A	清瀬市元町1丁目	約1.8km	25m×6コース 20m×3コース	約100名 約50名

イ 委託内容

i 水泳指導のための民間プール施設の使用

ii 使用回数・時間

・1グループにつき年間5～6回

・1回の入水時間は、概ね60分程度であるが、移動・更衣時間を含め2単位時間で計画

iii 専門性の高い指導補助員（以下、指導補助員）の派遣

平均して児童・生徒約10～15名につき1名による指導補助と安全面の確保

IV マイクロバス等による送迎

1台28人乗りの送迎バスを必要台数使用し、移動時間は概ね片道10～20分程度で送迎

V 更衣室の使用

1回で20名程度の更衣が可能な更衣室の利用

(2) 清瀬第四小学校

① 学校規模（令和4年5月1日現在）

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
児童数	34（0）	41（0）	34（0）	45（0）	32（0）	39（0）
学級数	1（0）	2（0）	1（0）	2（0）	1（0）	1（0）

※（ ）内は固定制特別支援学級

② 実施学年

第1学年から第6学年の全学年

水泳指導の実施は、1・2学年合同（低学年）、3・4学年合同（中学年）、5・6学年合同（高学年）の3グループで実施。

③ 年間スケジュール（●は実施回数）

	5月	6月	7月	9月	単位時間数
低学年		●16/6●26/20●36/27	●47/11	●59/5	全10回
中学年	●15/30	●26/13●36/27	●47/4	●59/12	全10回
高学年	●15/23	●26/13●36/20	●47/4●57/11	●69/26	全12回

※ 高学年●は着衣泳

④ 実施日のスケジュール（午前中の実施場合）

<第1グループ>

	児童の動き	担任の動き	補助員の動き
	※事前に着替え、バス乗車	・人数確認、点呼	
8:45	バス発車		
8:55	民間施設到着	・エレベーターに児童誘導	
9:10	授業開始	・観察・評価	・児童誘導
10:10	授業終了		
10:30	バス乗車	・バス乗車指導・点呼	・見送り
10:40	帰校	・健康観察	

<第2グループ>

	児童の動き	担任の動き	補助員の動き
	※事前に着替え、バス乗車	・人数確認、点呼	
10:15	バス発車		
10:25	民間施設到着	・エレベーターに児童誘導	
10:40	授業開始	・観察・評価	・児童誘導
11:40	授業終了		
12:00	バス乗車	・バス乗車指導・点呼	・見送り
12:10	帰校	・健康観察	

⑤ 教員等の指導体制

- ・主となる教員・・・担任
- ・グループ指導・・・指導補助員（平均して児童約10～15名につき1名が担当）

⑥ その他

- ・時間短縮のために民間施設に行く前に、水着を着用した上に体育着を着用。

(3) 清瀬第四中学校

① 学校規模 (令和4年5月1日現在)

	1年	2年	3年
生徒数	100 (0)	107 (0)	94 (0)
学級数	3 (0)	3 (0)	3 (0)

※ () 内は固定制特別支援学級

② 実施学年

第1学年から第3学年の3グループで実施。

③ 年間スケジュール (●は実施回数)

	10月	11月	12月	単位時間数
第1学年	●10/3●10/24	●11/7●11/21	●12/5●12/12	全12回
第2学年	●10/17	●11/14●11/21●11/28	●12/5●12/12	全12回
第3学年	●10/3●10/17●10/24	●11/7●11/14●11/28		全12回

④ 実施日のスケジュール

清瀬第四小学校とほぼ同様のスケジュール

⑤ 教員等の指導体制

- ・主となる教員・・・保健体育科教員
- ・グループ指導・・・指導補助員 (平均して生徒約10～15名につき1名が担当)

⑥ その他

移動時間の短縮を図るため、ジャージ登校し、集合は校門前。

(3) その他、児童・生徒及び保護者、教員の反応

① 児童・生徒の反応

【小学校】

- ・コーチが丁寧に教えてくれた。特にクロールの腕のかき方がわかった。お蔭で、クロールは少し自信がついた。
- ・コース別にコースロープがはってあり、そこで平泳ぎを何回も練習できた。細かい足の動きも教えてもらえた。
- ・泳ぐのが苦手だった。だけど台みたいのところまで泳げばいいと言われてがんばってみた。途中で助けてもらいながら泳げたのがよかった。

【中学校】

- ・室内なので温度調節ができていて、寒くないところがうれしい。
- ・日焼けを気にせず水泳ができ、良かった。
- ・設備が整っていて、ゴミも浮いていないし、虫がないので安心して学習できた。
- ・コーチがついていてわかりやすく説明してくれる。
- ・広いのでたくさん泳げていいです。

② 保護者の反応

- ・水泳が苦手な子供も、専門性の高い指導補助員が平均して生徒約10～15名につき1名付くことによって、やる気が出ているようだ。

- ・髪の毛長い子供が、寒い時期に水泳を行うと、風邪を引かないかやや心配。また、体調を崩すことによる受験等への影響も心配。
 - ・水泳の授業の公開を積極的に行うことにより、保護者の理解も得られるのではないか。
 - ・民間の施設を使うのであれば、是非とも、地元の民間施設を活用してほしい。
- ③ 教員の反応
- ・水中にプールフロアをおいての指導は、子供たちに安心感が生まれ、非常に良かった。
 - ・平均して生徒約 10～15 名につき 1 名の指導補助員により、今まで以上に効率的で、専門性の高い指導が行えた。
 - ・行き帰りの移動については、回数を重ねるごとに効率的になった。
 - ・年間の単元計画を考える中で、夏場に行く、運動を再考する必要がある。
 - ・当日の見学者については、今までのプールサイドでのワーク学習でなく、他の方法を考える必要がある。
 - ・バスの出発後に遅れてきた児童・生徒の扱いや指導中に体調不良を申し出てきた児童・生徒の扱いは、各学校で取り決めておく必要がある。

2 指導上の成果と課題

(1) 成果

- ・天候に左右されず、計画的な授業が可能になった。
- ・指導補助員による効率的で、効果的な指導により、運動量の確保ができた。
- ・指導補助員による質が高く、きめ細かい指導による泳力の向上ができた。
- ・指導補助員による万全な安全体制が整えられた。
- ・学校の施設管理上の負担軽減ができた。
- ・教員の水泳指導における安全管理上の負担軽減ができた。

(2) 課題

- ・技能向上に偏った学習に陥る可能性がある。
- ・民間施設を一つとし、全校での実施をする場合、午前中に指導時間を 3 回確保（研究指定校では 2 回のみ実施）するなど、実施日のスケジュールについて、更なる効率化を図らないと、5 月～翌年 2 月までの範囲に入らない。
- ・特別支援学級の指導について、研究を進める必要がある。
- ・学校と業者及び学校間との打合せ時間の確保が必要である。
- ・ローテーションを組むなどしての各学校の実施時期に偏りが生じない工夫が必要である。
- ・清瀬市立学校としての指導の公平性を保つ観点から民間施設については可能な限り一施設に収める必要がある。
- ・夏季休業中の水泳教室や部活動の実施ができない。

■ 第3節 令和4年度「研究指定校」の「財政面」の状況

1 清瀬市立学校における学校プール施設の設置状況

(1) 各校の設置時期

本市立小学校プール施設の設置時期は、以下のとおり。

学校名称	学校プール施設竣工	経過年数（令和4年度末）
清瀬小学校	昭和44年度	53
芝山小学校		
清瀬第三小学校	昭和42年度	55
清瀬第四小学校	昭和44年度	53
清瀬第六小学校	昭和45年度	52
清瀬第七小学校	昭和46年度	51
清瀬第八小学校	昭和48年度	49
清瀬第十小学校	昭和52年度	45
清明小学校	昭和43年度	54
清瀬中学校	昭和37年度	60
清瀬第二中学校	昭和40年度	57
清瀬第三中学校	昭和44年度	53
清瀬第四中学校	昭和53年度	44
清瀬第五中学校	昭和56年度	41

・小学校：25m 水深0.9～1.1m程度

・中学校：25m 水深1.3～1.4m程度

(2) 学校プール施設の耐用年数等

① 対応年数

一般的に学校プール施設の耐用年数は、50～80年程度とされており、約20年に一度、設備も含めた大規模な改修が必要となる。

② 学校プール施設の老朽化が激しい要因

- ・すべて屋外にあるため風雨や紫外線にさらされ、防水シート・塗装やプールサイドのシート等が使わずとも劣化していること。
- ・ろ過装置や配管においても稼働しない期間が劣化を進行させていること。

(3) 修繕等の必要性

「1 各校の設置時期」のとおり、各学校のプール施設は概ね40年から60年経過しているため、全体的に老朽化が進み大規模な改修が必要な状態である。特に、ろ過装置の不具合は、直接子供たちの衛生環境の悪化につながり、今後、機械の修繕をしても薬剤だけの対処ができない場合は水泳指導の可否にも及んでくる。加えて、プール水槽、プールサイドの修繕、プールを利用する際のトイレや更衣室といった設備も改修が望ましいものが多い状況である。

2 自校プール施設の設置に関わる財政負担（概算）

(1) 学校プール施設を新たに新設する場合の基本経費（概算）

- ・屋外プール施設 約 3.7 億円程度
- ・全天候型温水プール施設 約 9.5 億円程度

※設計費を含む

(2) 項目別修繕にかかわる経費（主な修繕費概算）

- ・防水シート改修費 約 1,000 万円（20 年に 1 度更新）
- ・ろ過装置改修費 約 900 万円（20 年に 1 度更新）
- ・その他

プール水槽、プールサイドの修繕、プールを利用する際のトイレや更衣室といった設備等
また、上記以外にも、コースロープやビート板等の教材教具も必要となる。

(3) 1 校当たりのプール施設の運営経費（1 シーズンあたり）

概ね 1 校当たりの運営経費 約 1,200 千円

経費項目	経費
薬剤費	約 107 千円
水道代	約 643 千円
保守点検委託費	約 36 千円
水質検査代	約 32 千円
清掃委託費	約 53 千円
修繕費	約 190 千円
電気代	約 80 千円
人件費（水泳指導員）	約 33 千円
合計*	約 1,174 千円

※その他、教材・教具等が含まれる。

3 研究指定校の財政面の状況

研究指定校の目的、期間、研究内容、委託先、委託内容等については、「第 2 節 令和 4 年度『研究指定校』の『指導面』の状況」の「1 各校の『指導面』の状況」（本書 P6）を参照のこと。

(1) 年間経費

	委託費
清瀬第四小学校	約 3,300 千円
清瀬第四中学校	約 3,600 千円
合計	約 6,900 千円

(2) 学校プール施設を設置年度から 80 年間使用すると想定して試算した場合の 1 校にかかる年間経費

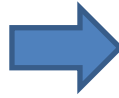
- ・各校平均 約 9,000 千円

4 成果と課題

(1) 成果（学校プール施設の使用期間と設置年度から 80 年として試算）

自校プール施設を維持した場合

今後 1 校にかかる年間費用
約 9,000 千円（各校平均）



民間施設活用委託の場合

今後 1 校にかかる年間費用
約 3,400 千円（各校平均）

◎ 1 校につき年間、概算 5,600 千円の財政負担が軽減される。

(2) 課題

- ・ 自校プール施設を維持するにあたって、各学校プール施設の老朽化が激しいため、修繕すべき基準が定まらない。
- ・ 学校プール施設を維持する場合、配管等の見えない部分の老朽化は、使用の可否についての判断が難しく、年度途中で破損することもあり、予算上の見積もりが難しい。

■ 第 4 節 その他

1 使用が可能な民間施設

授業を実施する上で、市立学校から概ね 15～20 分以内に行ける民間施設。

民間施設	場所	市本庁舎からの距離	プールの大きさ	収容人数
A	清瀬市	約 2.0 km	25m×6 コース 20m×3 コース	約 100 名 約 50 名
B	東久留米市	約 4.1km	25m×5 コース	約 90 名
C	埼玉県新座市	約 5.4km	25m×6 コース	約 100 名

2 近隣五市の民間プール施設の使用状況

	校数	夏季水泳指導
A市	2校（中学校）	0校
B市	0校	0校
C市	0校	0校
D市	2校（小学校）	1校（小学校）
E市	0校	0校

第2章

今後の水泳指導の基本的な考え方

■ 第 1 節 基本的な考え方

1 基本的な考え方

(1) 年間を通じた計画的な水泳指導の実施

水泳指導が、天候や熱中症対策、光化学スモッグ発生時の対応等により計画的にできていない現状を踏まえ、今後は、全校全学年で民間プール施設を活用し、年間を通して、計画的に水泳指導を実施する。

(2) 専門性が高く、効率的・効果的な学習の実現

あくまでも教員が指導するとした上で、民間プール施設の活用に伴い、より専門的な指導補助員の導入を行い、専門性が高く、効率的・効果的な学習を実現させる。

(3) 地域資源を活用した清瀬を誇りとする気持ちの醸成

郷土愛を育む観点から、民間施設の活用にあたっては、可能な限り、市民にとって、より身近で、親しみのある地域の施設を選定・活用する。

<解説>

(1) 年間を通じた計画的な水泳指導の実施について

川に囲まれる本市の状況において、水泳に関わる「心得」等の指導の実施は欠かせない学習内容である。

この現状の中、本市においては、近年、水泳指導が中止なることが多くなっている。6月時には、雨天等により気温、水温が十分に上がらず中止となり、振替が行われている。

さらに、7月時には、光化学スモッグ対策や近年の温暖化等による異常気象のために、WBGTの基準を超える日が増え、熱中症予防の観点から中止、振替が行われることがある。このように、水泳指導については、計画的な実施が困難な状況にある。そのため、民間プール施設（屋根付きの温水プール施設）を活用することなどによる、年間を通しての計画的な水泳指導の実施が求められている。

また、水泳指導の選択が可能な中学校第3学年においても、「複数の泳法で泳ぐこと、または、リレーをすること」といった中学校第3学年特有の指導内容があることから、本市では全校、全学年での水泳指導を実施していく。

(2) 専門性が高く、効率的・効果的な学習の実現について

民間プール施設の活用にあたっては、自校の施設でないため、より高い、安全性が求められる。また、移動等の時間も自校で行う指導以上に費やすため、より安全で効率的な指導が求められる。そのため、教員に加えて、専門性の高い指導補助員の導入を行い、より専門性が高く、効率的な学習を実現させる必要がある。

(3) 地域資源を活用した清瀬を誇りとする気持ちの醸成について

市民にとって、より身近で、親しみのある地域の教育資源の活用により、第2次清瀬市教育総合計画マスタープランにある子供たちに身に付けて欲しい力の「④清瀬を誇りとし持続発展の主体となる力」を育成する一助とする。また、このことは、子供たちの生涯にわたっての心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフの実現にもつながる。

■ 第2節 重視すべき指導の方向性

1 重視すべき指導の方向性

学習指導要領に基づいた指導の充実を図る上で、本市の民間プール施設を活用した水泳指導の体制を整えるために、特に重視すべき指導内容を「重視すべき指導の方向性」として以下にあげる。

各校においては、清瀬市教育委員会が提示した巻末資料「発達段階別『水泳指導の単元計画』」を参考に、以下の「重視すべき指導の方向性」を踏まえて単元計画を作成すること。

約 10～15 名程度の習熟度別少人数指導による個別最適化を図った学習環境を実現し、以下の事項を踏まえて、単元計画を作成する。

(1) 知識及び技能

全ての児童・生徒が自己の目標に応じた学習を行い、**個に応じた知識及び技能の着実な習得**が図られるようにする。

(2) 思考力・判断力・表現力等

発達段階に応じて**自己の課題を発見し、課題の解決に向けた取組を工夫（あそびや学習を工夫）**できるようにするとともに、**自己の考えを他者（友達）に伝えることができる**ようにする。

(3) 学びに向かう力・人間性等

愛好的、公正、協力、責任、参画及び水泳（水あそび・水泳運動）の事故防止に関する心得と健康・安全の確保について着実な定着を図る。**特に、小学校、中学校の各校種において、可能な限り「着衣のまま水に落ちた場合の対処の仕方」**を取り扱う。

■ 第3節 根拠法令等

1 水泳指導の実施について

(1) 学習指導要領（平成 29 年告示）上の水泳指導に関わる「心得」の扱い

- 小学校学習指導要領 第9節 体育 第2 各学年の目標及び内容
〔第1学年及び第2学年〕 2 内容 D 水遊び

(3) 運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、水遊びの心得を守って安全に気を付けたりすること。

〔第3学年及び第4学年〕 2 内容 D 水泳運動

(3) 運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、水泳運動の心得を守って安全に気を付けたりすること。

〔第5学年及び第6学年〕 2 内容 D 水泳運動

(3) 運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、水泳運動の心得を守って安全に気を配ったりすること。

○ 小学校学習指導要領 第9節 体育 第3 指導計画の作成と内容の取扱い

2 (6) 第2の内容の「D水遊び」及び「D水泳運動」の指導については、適切な水泳場の確保が困難な場合には、これらを取り扱わないことができるが、これらの心得については必ず取り上げること。

○ 中学校学習指導要領 第7節 保健体育 第2 各学年の目標及び内容

〔体育分野 第1学年及び第2学年〕 2 内容 D 水泳

(3) 水泳に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全に気を配ること。

〔体育分野 第3学年〕 2 内容 D 水泳

(3) 水泳に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとするなど、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保すること。

○ 中学校学習指導要領 第9節 体育 第2 各学年の目標及び内容

〔内容の取扱い〕

(1) 内容の各領域については、次のとおり取り扱うものとする。

ア 第1学年及び第2学年においては、「A体づくり運動」から「H体育理論」までについては、全ての生徒に履修させること。その際、「A体づくり運動」及び「H体育理論」については、2学年間にわたって履修させること。

イ 第3学年においては、「A体づくり運動」及び「H体育理論」については、全ての生徒に履修させること。「B器械運動」、「C陸上競技」、「D水泳」及び「Gダンス」についてはいずれかから一以上を、「E球技」及び「F武道」についてはいずれか一以上をそれぞれ選択して履修できるようにすること。

※ これを受け、「D水泳」は、第1学年及び第2学年において、全ての生徒に2学年間にわたって履修させ、第3学年において、選択して履修できるようにしている。

(2) 内容の「A体づくり運動」から「H体育理論」までに示す事項については、次のとおり取り扱うものとする。

～ (略) ～

エ 「D水泳」の(1)の運動については、第1学年及び第2学年においては、アからエまでの中からア又はイのいずれかを含む二を選択して履修できるようにすること。第3学年においては、アからオまでの中から選択して履修できるようにすること。なお、学校や地域の実態に応じて、安全を確保するための泳ぎを加えて履修させることができること。また、泳法との関連において水中からのスタート及びターンを取り上げること。なお、水泳の指導については、適切な水泳場の確保が困難な場合にはこれを扱わないことができるが、水泳の事故防止に関する心得については、必ず取り上げること。また、保健分野の応急手当との関連を図ること。

(2) 「D水遊び」及び「D水泳運動」の心得について

- 学校体育実技指導資料第4集「水泳指導の手引」文部科学省より

第4章 水泳指導と安全

第2節 5 入水時と休憩の注意事項 (2) 休憩時の注意事項

休憩時は、疲労の回復に努めさせることが原則ですが、事故防止の心得や救助法、あるいは学習上の問題点について、指導の場面とすることもできます。

- 盛夏の暑いときや紫外線の影響が強いと考えられるときには、タオルで身体を覆わせたり、休憩テントの中で待機させるような配慮も必要です。また、激しい運動の際や水温が高い時などは熱中症の危険があるため、十分な水分補給をさせるなどの配慮をしましょう。
- 気温や水温が低い場合には、衣服を着用させたり、暖をとるための運動、水泳の陸上練習などを取り入れる工夫が望まれます。

第4章 水泳指導と安全

第2節 7 水泳の事故防止に関する心得

水泳は泳ぎの経験が少ない者によっては、不安感や恐怖心を伴う活動であり、また、水中では呼吸ができないことから一步誤れば生命を失うことにもなりかねません。このため、児童生徒一人一人が、水の危険から自己の生命を守るとともに、事故に遭遇したときの対処の仕方等を身に付けておく必要があります。

2 第2次清瀬市教育総合計画マスタープラン実行計画との関連について

(1) 地域の社会資源（民間プール施設）を活用した水泳指導について

教育委員会では、不透明で不確実な21世紀を生きる、子供たちが身に付けるべき力として、

- ①「生きて働く知識や技能」、②「未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力」、③「生涯に渡って学び続ける力や人間性」、④「清瀬を誇りとし持続発展の主体者となる力」、⑤

「自他の命を何よりも大切にできる力」の五つを掲げ、その育成に取り組んでいる。

このことは、学校や教育委員会だけで成し得るものではなく、家庭や地域の方々のご協力を頂きながら「社会総がかり」で取り組むことが求められる。

こうした中、文部科学省が毎年実施している全国学力・学習状況調査における質問紙調査で調べた、「④清瀬を誇る気持ち」の肯定率が、小学校ではいずれも東京都平均と全国平均を下回り、中学校ではいずれも東京都平均と全国平均を上回る結果である。学校段階が上がるにつれて、徐々に社会的な視野が広がり、地域とのつながりを実感できるようになることがうかがえる結果となったが、引き続き、「清瀬を誇る気持ち」を一層高めていけるよう、体験的な学習の充実を図ることが求められる。

そこで、以下に示した第2次清瀬市教育総合計画マスタープラン実行計画の柱及びその方向性にあるように、地域の社会資源を活用した民間プール施設での水泳指導を体験することにより、より一層の地域とのつながりを児童・生徒に体験させることは大変有意義なものである。

柱5「地域の力で清瀬の教育をつなぎます」

地域コミュニティの機能が希薄な現代において、人と社会をつなげる地域の役割はとて重要です。地域コミュニティの体制を整備することにより、生涯学習、家庭、学校、郷土文化を地域の力でつなぎ、清瀬の教育の充実と地域の活性化を目指します。

方向性15：世代を超えた地域コミュニティの構築

変化の激しい社会で自立して生活するためには、家庭・学校だけでなく地域社会での、世代・文化・生活様式等の異なる多様な人々との交流により、理解を深め、それぞれの持っている知識・技能を伝承、継承していくことでコミュニティの活性化を目指します。

方向性16：地域の力を学校に生かす仕組みづくりの推進

学校を取り巻く環境は著しく変化しており、学校における教育活動への地域ボランティアの支援はますます重要となります。それらの支援が学校のニーズに合致するような仕組みをつくり、学校への支援を活性化させることで、学校を核にした地域コミュニティの構築を目指します。

■第4節 期待される効果

本市としては、小学校第1学年から中学校第3学年までの指導の一貫性を重視し、本市が示した指導計画を参考に徹底した習熟度別少人数指導を行う。このことにより、9年間の学習内容の系統性が担保され、以下の実現を図ることができる。

- 水泳に関する知識及び技能の着実な定着。
- 「水泳の事故防止に関する心得」「健康・安全を確保する」態度の育成。
- 「清瀬を誇る気持ち」の醸成。

第3章

実施計画

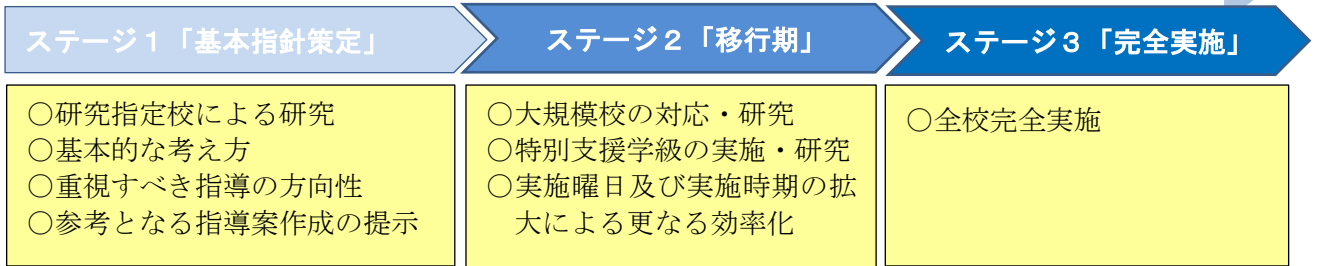
■ 第1節 実施計画

1 実施計画

年度	令和4年度	令和5～6年度	令和7年度
計画	基本指針策定	移行期	完全実施

2 完全実施までの手順

水泳指導の充実に向けた基本指針の策定及び指導計画等の充実・調整



■ 第2節 年次計画

1 年次計画（予定）

委託会社	令和3～4年度	令和5年度	令和6年度	完全実施 令和7年度
A社 (清瀬市)	清瀬小	清瀬小	清瀬小	清瀬小
	芝山小	芝山小	芝山小	芝山小
	第三小	第三小	第三小	第三小
	第四小	第四小	第四小	第四小
	第六小	第六小	第六小	第六小
	第七小	第七小	第七小	第七小
	第八小	第八小	第八小	第八小
	第十小	第十小	第十小	第十小
	清明小	清明小	清明小	清明小
	清瀬中	清瀬中	清瀬中	清瀬中
第二中	第二中	第二中	第二中	
第三中	第三中	第三中	第三中	
第四中	第四中	第四中	第四中	
第五中	第五中	第五中	第五中	

※「白抜き」が新規導入校

2 移行期における民間プール施設を活用した水泳指導校について

完全実施に向けては、各学校のプール施設の状況や学校の実態（児童・生徒数、部活動等）を鑑み、年次ごとに優先順位を付けて、数年かけて全校実施をしていく。

■ 第3節 移行期における研究の継続

1 移行期における研究課題

移行期においては、今まで同様、「第1章 基本方針策定の背景～本市の水泳指導の現状と課題」の「第2節 令和4年度『研究指定校』の『指導面』の状況」及び「第3節 令和4年度『研究指定校』の『財政面』の状況」を踏まえ、それぞれの課題に応じた研究を継続する。

(1) 令和5年度の実施について（予定）

令和7年度の全校実施に向けて、

- ① 本市にとって比較的大規模である学校の実施
- ② 特別支援学級の実施
- ③ 午前中に指導時間を3コマ設定
- ④ 冬季における実施
- ⑤ 実施曜日と実施期間の拡充

といった課題に対して、以下のとおり令和5年度に実施を行いその検証を行う。

＜令和5年度 移行期における民間プール施設を活用した水泳指導校の実施予定＞

※全校、授業時数は、1コマにつき2単位時間

日付	学校名	1コマ目	2コマ目	3コマ目	4コマ目
始業時間（参考）		8:45	9:45	10:45	13:15
1 5/15	十小 (584人)	①3	①2	①1	①6
2 5/22		①4	②1	②2	①5
3 5/29		②3	②4	②5	②6
4 6/5		③3	③2	③1	③6
5 6/12		③4	④1	④2	③5
6 6/19		④3	④4	④5	④6
7 6/26		⑤6	⑤2	⑤3	⑤5
8 7/3		⑤2	⑤1		
9 7/10	清瀬中 (378人)	①3	①特支	①2	①1
10 9/4		②3	①特支	②2	②1
11 9/11		③3	①特支	③2	③1
12 9/25		④3	①特支	④2	④1
13 10/2		⑤3	①特支	⑤2	⑤1
※表中の「①」は、実施回数を示し、「1もしくは特支」は学年をもしくは、特別支援学級を示す。					
日付	学校名	1コマ目	2コマ目	3コマ目	4コマ目
始業時間（参考）		9:10		10:50	13:15
14 10/16	四中 (301人)	①1		①2	①3
15 10/23		②1		②2	②3
16 10/30		③1		③2	③3
17 11/6		④1		④2	④3
18 11/13		⑤1		⑤2	⑤3
19 11/20	四小 (225人)	①1.2		①3.4	①5.6
20 11/27		②1.2		②3.4	②5.6
21 12/4		③1.2		③3.4	③5.6
22 12/11		④1.2		④3.4	④5.6
23 12/18	⑤1.2		⑤3.4	⑤5.6	
24 1/15	芝小 (339人)	①1.2		①3.4	①5.6
25 1/22		②1.2		②3.4	②5.6
26 1/29		③1.2		③3.4	③5.6
27 2/5		④1.2		④3.4	④5.6
28 2/19		⑤1.2		⑤3.4	⑤5.6

※ 実施学年は、あくまでも予定であり、各学校で変更することがある。

(2) 令和6年度以降の実施予定について

令和6年度の実施予定については、前年度の5～6月頃に調整会議を実施し、各学校が余裕をもって教育課程の編成に臨めるよう市教育委員会として配慮する。

また、令和7年度以降の実施に向けて、実施校のローテーションを組むなどの工夫により、各学校の実施時期に偏りが生じないような工夫を行う。

第4章

水泳指導の具体的な展開

■ 第 1 節 清瀬市立学校における民間プール施設の活用

1 対象学年

小学校第 1 学年～中学校第 3 学年の全校全学年。

2 実施期間

毎年 5 月上旬連休終了後から翌年 2 月末までの期間の中で、市教委が中心となって受託業者及び各学校で調整し実施。

3 指導時間

全校全学年 5 回で実施し、移動時間も含め概ね 2 単位時間程度を 1 コマとして計画。

4 指導内容

体育・保健体育の学習指導要領に準ずる。ただし、「水泳の事故防止に関する心得」「健康・安全を確保する態度」に関わる指導を重視。

5 指導補助員等

受託業者は、平均して児童・生徒約 10～15 名につき 1 名の水泳に関する専門性の高い補助員を派遣。

■ 第 2 節 推進体制

1 清瀬市立学校における水泳指導基本指針の策定（教育指導課）

民間施設を活用した水泳指導研究指定校の成果と課題を踏まえて、清瀬市立学校における水泳指導の在り方について、「基本指針」を策定。

2 モデルとなる単元計画の提示（教育指導課）

基本指針にそって、民間施設を活用したより良い水泳指導のための単元計画作成部会を設置し、各学校のモデルとなる単元指導計画を作成し、各学校に提示。

3 水泳指導実施日の調整会議の開催（教育総務課・校長会）

市教育委員会が中心となり、前年度の 5～6 月を目途に、民間事業者及び学校担当者を招集し、翌年度の体育・保健体育科の水泳指導に関わる日程調整。

■ 第 3 節 実施にあたっての各学校の配慮事項

1 特別支援学級の実施について

特別支援学級の実施については、20m×3 コースのプールも活用するなどして、工夫をする。

2 各学校による民間事業者に対する毎時間の指導計画書の提出

各学校は、本市が示した単元指導計画を基に、学校担当者を中心に、受託業者に対して事前に毎時間の指導計画を作成し、提出をする。

3 見学者の学習支援

プールサイドは気温と湿度が非常に高いため、授業の見学者スペースは、プールの場所とは異なる場所になる。そのため、各学校は、児童・生徒の状況に応じて、施設 2 階のギャラリーから見

学することや学校内において水泳等の動画学習等の課題に取り組ませるなど、児童・生徒が安全安心に学習を行う工夫を講じること。(なお、施設側に、プールサイドでの見学ができないといったルールがあるわけではありません。)

4 冬季における水泳指導後の体調管理

髪の毛の長い児童・生徒については、冬季における水泳指導後に髪が十分に乾かず体調を崩す懸念がある。そのため、水泳指導後の授業中における教室の温度管理やタオル生地のキャップ等の着用の許可の他、ドライヤーの使用など、各学校で創意工夫に努める。

5 保護者の水泳指導の見学について

保護者にとって、学校を離れての授業については、心配の聲が寄せられる。このことを踏まえ、各学校においては、保護者への水泳指導の見学ができるよう配慮する。

6 学校のプール施設を利用した夏季休業中の水泳教室について

本実施により、1単位時間で通常の約3倍程度の運動量(受託業者推定値)を確保できるため、概ね授業の範囲で求められる水泳指導の実現が図られる。そのため、委託がなされた学校については、今後、学校プール施設を利用した水泳指導及び夏季休業中の水泳教室は実施しない。

7 部活動等について

中学校における部活動(水泳部の活動)については、今後、別途展開される「部活動の地域連携」と合わせて検討する。

8 その他

委託後の学校プール施設の跡地利用については、各学校の実態に応じて、市が、随時検討し、判断を行っていく。

資料

資料1 評価規準

小学校評価規準(清瀬市立中学校とスポーツクラブとの連携授業における規準)

○低学年(水遊び)評価規準

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
<p>次の運動遊びの行い方を知っているととも、その動きを身に付けている。</p> <p>①水の中を移動する運動遊びでは、水につかって歩いたり走ったりしている。</p> <p>②もぐる・浮く運動遊びでは、息を止めたり吐いたりしながら、水にもぐったり浮いたりしている。</p>	<p>①水の中を移動したり、もぐったり浮いたりする簡単な遊び方を工夫している。とともに、考えたことを友達に伝えている。</p>	<p>①運動遊びに進んで取り組もうとし、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしようとしていたり、水遊びの心得を守って安全に気を付けたりしている。</p>

○中学年(水泳運動)評価規準

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
<p>次の運動の行い方を知っているととも、その動きを身に付けている。</p> <p>①浮いて進む運動では、け伸びや初歩的な泳ぎをしている。</p> <p>②もぐる・浮く運動では、息を止めたり吐いたりしながら、いろいろなもぐり方や浮き方をしている。</p>	<p>①自己の能力に適した課題を見付け、水の中での動きを身に付けるための活動を工夫しているとともに、考えたことを友達に伝えている。</p>	<p>①運動に進んで取り組もうとし、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしようとしていたり、友達の考えを認めようとしていたり、水泳運動の心得を守って安全に気を付けたりしている。</p>

○高学年(水泳運動)評価規準

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
<p>次の運動の行い方を理解しているとともに、その技能を身に付けている。</p> <p>①クロールでは、手や足の動きに呼吸を合わせて続けて長く泳いでいる。</p> <p>②平泳ぎでは、手や足の動きに呼吸を合わせて続けて長く泳いでいる。</p> <p>③安全確保につながる運動では、背浮きや浮き沈みをしながら続けて長く浮いている。</p>	<p>①自己の能力に適した課題の解決の仕方や記録への挑戦の仕方を工夫しているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p>	<p>①運動に積極的に取り組もうとし、約束を守り助け合って運動をしようとしていたり、仲間の考えや取組を認めようとしていたり、水泳運動の心得を守って安全に気を配ったりしている。</p>

中学校評価規準(清瀬市立中学校とスポーツクラブとの連携授業における規準)

○第1、2学年(水泳)評価規準(太字が主に第1学年)

知識及び技能		思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
<p>○知識</p> <p>①水泳は、泳法を身に付け、続けて長く泳いだり、速く泳いだり、競い合ったりする楽しさや喜びを味わうことのできる運動であることについて、言ったり、書き出したりしている。</p> <p>②水泳は、近代オリンピック・パラリンピック競技大会において主要な競技として発展した成り立ちがあることについて、言ったり、書き出したりしている。</p> <p>③水泳の各種目において用いられる技術の名称や運動局面の名称があり、それぞれの技術や局面で、動きを高めるための技術的なポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。</p> <p>④水泳は、それぞれの種目で主として高まる体力要素が異なることについて、学習した具体例を挙げている。</p>	<p>○技能</p> <p>【泳法】</p> <p>ア クロール</p> <p>①一定のリズムで強いキックを打つことができる。</p> <p>②水中で肘を曲げて腕全体で水をキャッチし、S字やI字を描くようにして水をかくことができる。</p> <p>③プルとキック、ローリングの動作に合わせて横向きで呼吸をすることができる。</p> <p>イ 平泳ぎ</p> <p>①蹴り終わりで長く伸びるキックをすることができる。</p> <p>②肩より前で、両手で逆ハート型を描くように水をかくことができる。</p> <p>③プルのかき終わりに合わせて顔を水面上に出して息を吸い、キックの蹴り終わりに合わせて伸び(グライド)をとり進むことができる。</p> <p>ウ 背泳ぎ</p> <p>①両手を頭上で組んで、腰が「く」の字に曲がらないように背中を伸ばし、水平に浮いてキックをすることができる。</p> <p>②水中では、肘が肩の横で60～90度程度曲がるようにしてかくことができる。</p> <p>③水面上の腕は、手と肘を高く伸ばした直線的な動きをすることができる。</p> <p>④呼吸は、プルとキックの動作に合わせて行うことができる。</p> <p>エ バタフライ</p> <p>①気をつけの姿勢やピート板を用いて、ドルフィンキックをすることができるようにする。</p> <p>②両手を前方に伸ばした状態から、鍵穴(キーホール)の形を描くように水をかくことができる。</p> <p>③手の入水時とかき終わりのときに、それぞれキックをすることができる。</p> <p>④プルのかき終わりと同時にキックを打つタイミングで、顔を水面上に出して呼吸をすることができる。</p> <p>【スタート及びターン】</p> <p>ア スタート</p> <p>①クロール、平泳ぎ、バタフライでは、水中で両足あるいは左右どちらかの足をプールの壁につけた姿勢から、スタートの合図と同時に顔を水中に沈め、抵抗の少ない流線型の姿勢をとって壁を蹴り泳ぎだすことができる。</p> <p>②背泳ぎでは、両手でプールの縁やスターティンググリップをつかんだ姿勢から、スタートの合図と同時に両手を前方に伸ばし、抵抗の少ない仰向けの姿勢をとって壁を蹴り泳ぎだすこと。</p> <p>イ ターン</p> <p>①クロールと背泳ぎでは、片手でプールの壁にタッチし、膝を抱えるようにして体を反転し蹴りだすことができる。</p> <p>②平泳ぎとバタフライでは、両手で同時に壁にタッチし、膝を抱えるようにして体を反転し蹴りだすことができる。</p>	<p>①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えることができる。</p> <p>②提供された練習方法から、自己の課題に応じて、泳法の習得に適した練習方法を選ぶことができる。</p> <p>③学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えることができる。</p> <p>④仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けることができる。</p> <p>⑤体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習や競争を行う方法を見付け、仲間に伝えることができる。</p>	<p>①水泳の学習に積極的に取り組もうとすることができる。</p> <p>②勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすることができる。</p> <p>③用具等の準備や後片付け、計測などの分担した役割を果たそうとすることができる。</p> <p>④一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするすることができる。</p> <p>⑤水の安全に関する事故防止の心得を遵守するなど、健康・安全に留意することができる。</p>

○第3学年(水泳)評価規準

知識及び技能		思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
<p>○知識</p> <p>①水泳の各種目で用いられる技術の名称があり、それぞれの技術には、効率的に泳ぐためのポイントがあることについて言ったり、書き出したりしている。</p> <p>②泳法と関連させた補助運動や部分練習を繰り返したり、継続して行ったりすることで、結果として体力を高めることができることについて、学習した具体例を挙げている。</p> <p>③自己の動きや仲間の動き方を分析するには、自己観察や他者観察などの方法があることについて、学習した具体例を挙げている。</p>	<p>○技能</p> <p>【泳法】</p> <p>ア クロール</p> <p>①水面上の腕は、ローリングの動きに合わせてリラックスして前方へ動かすことができる。</p> <p>②泳ぎの速さに応じて、顔を横に向ける大きさを調節して呼吸動作を行うことができる。</p> <p>イ 平泳ぎ</p> <p>①肩より前で、両手で逆ハート型を描くように強くかくことができる。</p> <p>②プルのかき終わりに合わせて顔を水面上に出して呼吸を行い、キックの蹴り終わりに合わせて伸び(グライド)をとり、1回のストロークで大きく進むことができる。</p> <p>ウ 背泳ぎ</p> <p>①水面上の腕は肘を伸ばし、肩を支点にして肩の延長線上に小指側からまっすぐ入水することができる。</p> <p>②一連のストロークで、肩をスムーズにローリングさせることができる。</p> <p>エ バタフライ</p> <p>①腕を前方に伸ばし、手のひらが胸の前を通るようなキーホールの形を描くようにして腰や太ももくらいまで大きくかく動き(ロングアームプル)で進むことができる。</p> <p>②手の入水時のキック、かき終わりの時のキック及び呼吸動作を一定のリズムで行うことができる。</p> <p>オ 複数の泳法で泳ぐこと、又はリレー</p> <p>①複数の泳法で泳ぐことができる。</p> <p>②リレーをすることができる。</p> <p>【スタート及びターン】</p> <p>ア スタート</p> <p>①クロール、平泳ぎ、バタフライでは、水中で両足あるいは左右どちらかの足をプールの壁につけた姿勢から、スタートの合図と同時に顔を水中に沈め、抵抗の少ない流線型の姿勢をとって力強く壁を蹴り、各泳法に適した水中における一連の動きから、泳ぎだすことができる。</p> <p>②背泳ぎでは、両手でプールの縁やスターティンググリップをつかんだ姿勢から、スタートの合図と同時に頭を水中に沈めながら力強く壁を蹴り、水中で抵抗の少ない仰向けの姿勢にする一連の動きから、泳ぎだすことができる。</p> <p>イ ターン</p> <p>①クロールと背泳ぎでは、プールの壁から5m程度離れた場所からタイミングを計りながら、泳ぎの速度を落とさずに、片手でプールの壁にタッチし、膝を抱えるようにして体を反転させ蹴りだすことができる。</p> <p>②平泳ぎとバタフライでは、プールの壁から5m程度離れた場所からタイミングを計りながら、泳ぎの速度を落とさずに、両手で同時に壁にタッチし、膝を抱えるようにして体を反転させ蹴りだすことができる。</p>	<p>①選択した泳法について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。</p> <p>②自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。</p> <p>③選択した泳法に必要な準備運動や自己が取り組む補助運動を選んでいる。</p> <p>④健康や安全を確保するために、体調や環境に応じた適切な練習方法等について振り返っている。</p> <p>⑤パディやグループで分担した役割に関する成果や改善すべきポイントについて自己の活動を振り返っている。</p> <p>⑥体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに水泳を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けている。</p> <p>⑦水泳の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けている。</p>	<p>①水泳の学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>②勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとしている。</p> <p>③仲間と互いに合意した役割について自己の責任を果たそうとしている。</p> <p>④一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。</p> <p>⑤水の事故防止の心得を遵守するなど健康・安全を確保している。</p>

資料2 【参考】単元指導計画

小学校 低学年 体育科 水遊び 水遊び 単元指導計画(参考)

単元の目標	1	2	3	4	5	6
<p>知識及び技能</p> <p>思考力、判断力、表現力等</p> <p>学びに向かう力、人間性等</p>	<p>オリエンテーション</p> <p>○指導・技能</p> <p>・水の中を移動する遊び</p> <p>・もぐる・浮く運動遊び</p> <p>○水遊びの心得</p> <p>・準備運動や整理運動をしつつ入り行う</p> <p>・丁寧にシャワーを浴びる</p> <p>・プールサイドは走らない</p> <p>・プールの飛び込みはしない</p> <p>・友達とぶつからないように動く</p> <p>・体(爪、耳、鼻、頭髪等)を清潔にしておく</p> <p>○順番や決まりを守り、誰とでも仲よくする</p> <p>○道具の準備や片づけを、友達と一緒にする</p> <p>○ルールを守り</p> <p>○注意</p>	<p>【水の中を移動する運動遊び】</p> <p>○水につかって水かけっこ、まねっこ遊び</p> <p>【いろいろな動物になって】(1年)</p> <p>【鬼遊び】(1年)</p> <p>【お池に水かけっこ】(2年)</p> <p>○顔付け(1年)</p> <p>【かごさんぶくろ】お池にボチャン!</p> <p>【このぬいぐるみ】お池でたし算!</p> <p>○もぐりっこ(2年)</p> <p>【お池にボチャン!】水中にらめっこ</p> <p>【水中言葉当て】</p> <p>○○○(2年)</p> <p>【たのま浮き、水の字浮き、胸浮き】</p> <p>【水中で息をとめたり吐いたり】</p> <p>【寝身浮き】</p> <p>【課題別】</p> <p>○補助員を活用した運動遊び(1年・全員一斉、2年選択)</p> <p>【宝探し】(一斉)</p> <p>【ヒート板を使った運動遊び】</p> <p>【輪を使った運動遊び】</p> <p>【学習の振り返り】</p>	<p>健康観察・本時のねらいの確認・準備運動</p> <p>水慣れ(リズム水遊び)</p> <p>【水の中を移動する運動遊び】</p> <p>○水につかって電車ごっこ、リレー遊び、鬼遊び</p> <p>【ねことねずみ】(1年)</p> <p>【鬼遊び】(1・2年)</p> <p>【リレー遊び】(2年)</p> <p>【もぐる・浮く運動遊び】</p> <p>○浮き遊び(1年)</p> <p>【水中央クレーン】</p> <p>【おもくろ】浮く運動遊び】</p> <p>【もぐりっこ(2年)】</p> <p>【連続ジャンプ】</p> <p>【つかまっで浮く】</p> <p>○バフリング、ホッピング(2年)</p> <p>【ワニケンケン】「一緒にゴー(手つなぎジャンプ)」</p> <p>【課題別】</p> <p>○補助員を活用した運動遊び(1年・2年選択)</p> <p>【宝探し】(一斉)</p> <p>【ヒート板を使った運動遊び】</p> <p>【輪を使った運動遊び】</p> <p>【学習の振り返り】</p>	<p>【水の中を移動する運動遊び】</p> <p>○水につかって電車ごっこ、リレー遊び、鬼遊び</p> <p>【ねことねずみ】(1年)</p> <p>【鬼遊び】(1・2年)</p> <p>【リレー遊び】(2年)</p> <p>【課題別】</p> <p>【宝探し】(一斉)</p> <p>【ヒート板を使った運動遊び】</p> <p>【輪を使った運動遊び】</p> <p>【学習の振り返り】</p>	<p>整理運動、本時のまとめ、連絡事項</p>	<p>単元のまとめ</p>
時	10分	20分	30分	40分	50分	60分
学習の流れ						
評価規程	①②	①	①	①	②	①
評価方法						観察、学習カード(振り返り等)
単元の評価規程	<p>次の運動遊びの行い方を知るとともに、その動きを身に付けている。</p> <p>○水の中を移動する運動遊びでは、水につかって泳いだり走ったりしている。</p> <p>②もぐる・浮く・運動遊びでは、息を止めたり吐いたりしながら、水にもぐったり浮いたりしている。</p>	<p>次の運動遊びの行い方を知るとともに、その動きを身に付けている。</p> <p>○水の中を移動する運動遊びでは、水につかって泳いだり走ったりしている。</p> <p>②もぐる・浮く・運動遊びでは、息を止めたり吐いたりしながら、水にもぐったり浮いたりしている。</p>	<p>次の運動遊びの行い方を知るとともに、その動きを身に付けている。</p> <p>○水の中を移動する運動遊びでは、水につかって泳いだり走ったりしている。</p> <p>②もぐる・浮く・運動遊びでは、息を止めたり吐いたりしながら、水にもぐったり浮いたりしている。</p>	<p>次の運動遊びの行い方を知るとともに、その動きを身に付けている。</p> <p>○水の中を移動する運動遊びでは、水につかって泳いだり走ったりしている。</p> <p>②もぐる・浮く・運動遊びでは、息を止めたり吐いたりしながら、水にもぐったり浮いたりしている。</p>	<p>次の運動遊びの行い方を知るとともに、その動きを身に付けている。</p> <p>○水の中を移動する運動遊びでは、水につかって泳いだり走ったりしている。</p> <p>②もぐる・浮く・運動遊びでは、息を止めたり吐いたりしながら、水にもぐったり浮いたりしている。</p>	<p>次の運動遊びの行い方を知るとともに、その動きを身に付けている。</p> <p>○水の中を移動する運動遊びでは、水につかって泳いだり走ったりしている。</p> <p>②もぐる・浮く・運動遊びでは、息を止めたり吐いたりしながら、水にもぐったり浮いたりしている。</p>

小学校 中学生 体育科 水泳運動 単元指導計画(参考)

単元の目標		授業づくりのポイント						
		1	2	3	4	5	6	
知識及び技能	(1) 次の運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知らせるとともに、その動きを身に付けること。 ア 浮いて進む運動では、け伸びや初歩的な泳ぎを、もぐりや浮き方をすること。 イ もぐりや浮く運動では、息を止めたり吐いたりしながら、いろいろなもぐり方や浮き方をすること。	オリエンテーション ○知識・技能 初歩的な泳ぎ ・泳ぎの楽しさや喜びを伝える足 泳ぎ ・浮いて呼吸をしながら手や足を使 って進むこと(大切)	【水泳び】 ・宝探し→もぐり、浮くへ ・輪くぐり→け伸びへ ・ヒート版遊び→補助具を用いたばた足、かえる足へ 【もぐり・浮く運動遊び】 ○いろいろなもぐり方 「プールの底にタラシ」 「泳ぐくぐり」 【浮いて進む運動】 ○け伸び(3年) 「壁を強く蹴って」 ○け伸び(4年) 「壁を強く蹴って(姿勢を意識して)」 「友達といっしょに」 【初歩的な泳ぎ】 ○呼吸しながらの「ばた足」や「かえる泳ぎ」(3年) (ヒート版等の補助具を使う) ○呼吸しながらの「ばた足」や「かえる泳ぎ」(4年) 「水面に顔を付けて泳ぐ」 【課題別グループ】 ○もぐり・浮く ○初歩的な泳ぎ(呼吸なし) ○手足をつけた初歩的な泳ぎ(呼吸しながら) 【学習の振り返り】	健康観察 本時のねらいの確認 準備運動 水慣れ(リズミク)	【水泳び】 ・宝探し→もぐり、浮くへ ・輪くぐり→け伸びへ ・ヒート版遊び→補助具を用いたばた足、かえる足へ 【もぐり・浮く運動遊び】 ○いろいろなもぐり方 「水中でのいろいろな姿勢(逆立ちなど)」(4年) 【初歩的な泳ぎ】 ○手を動かして進む(3年) ・左右交互にかく(クロール) 中を描いて前進を出す(平泳ぎ、呼吸) ・左右交互にかく(ばた足)や「かえる泳ぎ」(手や足をバタフタ)と動かさない、呼吸をしながら進む(4年) クロールや平泳ぎができる距離には、け伸びの距離を伸 ばしたり、いろいろな泳ぎに挑戦させたりする。 【課題別グループ】 ○もぐり・浮く ○初歩的な泳ぎ(呼吸なし) ○手足をつけた初歩的な泳ぎ(呼吸しながら) 【学習の振り返り】	【水泳び】 ・宝探し→もぐり、浮くへ ・輪くぐり→け伸びへ ・ヒート版遊び→補助具を用いたばた足、かえる足へ 【課題別グループ】 ○もぐり・浮く ○初歩的な泳ぎ(呼吸なし) ○手足をつけた初歩的な泳ぎ(呼吸しながら) 【学習の振り返り】	1. 3つの練習・能力の内容をバランスよく指導する。 2. 水泳運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知らせるとともに、け伸びや初歩的な泳ぎ、もぐりや浮くことなどの基本的な動きや技能を身に付けるようにする。 3. 自主的な学習を促すための知識を効果的に理解できるように指導する。 4. け伸びで、体を一直線に伸ばすことが苦手な児童には、補助具(浮き輪)の活用を促す。また、待つ間にけ伸びしたりの体を使った練習に誘う。また、け伸びの姿勢に誘ってもつたりする。 5. 初歩的な泳ぎで、手と足の動きと呼吸のタイミングを合わせることが苦手な児童には、動きのイメージができる言葉とともに、タイムリントップを繰り返す。 6. 友達と練習することや苦手な児童には、自己の能力に適した距離や時間等の明確な目標をもつて挑戦する機会を設定し、その達成感や達成感の共有を促す。 7. 既にクロールや平泳ぎができる児童には、け伸びの距離をより伸ばすことや距離を伸ばすことや、呼吸をしながら進む(4年)や、クロールや平泳ぎができる距離にけ伸びの距離をより伸ばすことを指導し、背中をプールのそこに付いたり逆立ちや連続回転をしたりすることを指導したりする。 8. 3人程度のグループで互いの運動を褒めながら、行う。	
単元の目標	(2) 自己の能力に適した課題を見付け、水の中の動きを身に付けるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。 (3) 運動に進んで取り組む、きまりを守り誰とも仲よく運動をしたり、友達のを認めたり、水泳運動の心得を守って安全に泳ぐことができること。	【水泳び】 ・宝探し→もぐり、浮くへ ・輪くぐり→け伸びへ ・ヒート版遊び→補助具を用いたばた足、かえる足へ 【もぐり・浮く運動遊び】 ○いろいろなもぐり方 「プールの底にタラシ」 「泳ぐくぐり」 【浮いて進む運動】 ○け伸び(3年) 「壁を強く蹴って」 ○け伸び(4年) 「壁を強く蹴って(姿勢を意識して)」 「友達といっしょに」 【初歩的な泳ぎ】 ○呼吸しながらの「ばた足」や「かえる泳ぎ」(3年) (ヒート版等の補助具を使う) ○呼吸しながらの「ばた足」や「かえる泳ぎ」(4年) 「水面に顔を付けて泳ぐ」 【課題別グループ】 ○もぐり・浮く ○初歩的な泳ぎ(呼吸なし) ○手足をつけた初歩的な泳ぎ(呼吸しながら) 【学習の振り返り】	【水泳び】 ・宝探し→もぐり、浮くへ ・輪くぐり→け伸びへ ・ヒート版遊び→補助具を用いたばた足、かえる足へ 【もぐり・浮く運動遊び】 ○いろいろなもぐり方 「水中でのいろいろな姿勢(逆立ちなど)」(4年) 【初歩的な泳ぎ】 ○手を動かして進む(3年) ・左右交互にかく(クロール) 中を描いて前進を出す(平泳ぎ、呼吸) ・左右交互にかく(ばた足)や「かえる泳ぎ」(手や足をバタフタ)と動かさない、呼吸をしながら進む(4年) クロールや平泳ぎができる距離には、け伸びの距離を伸 ばしたり、いろいろな泳ぎに挑戦させたりする。 【課題別グループ】 ○もぐり・浮く ○初歩的な泳ぎ(呼吸なし) ○手足をつけた初歩的な泳ぎ(呼吸しながら) 【学習の振り返り】	【水泳び】 ・宝探し→もぐり、浮くへ ・輪くぐり→け伸びへ ・ヒート版遊び→補助具を用いたばた足、かえる足へ 【課題別グループ】 ○もぐり・浮く ○初歩的な泳ぎ(呼吸なし) ○手足をつけた初歩的な泳ぎ(呼吸しながら) 【学習の振り返り】	整理運動 本時のまとめ、連絡事項	単元のまとめ	6 総括的な評価	観察、学習カード(振り返り等) 観察、学習カード(振り返り等) 観察、学習カード(振り返り等)
学級の流れ								
評価機会	知 技 思 感	①②	①②	①②	①	①②	①②	観察、学習カード(振り返り等)
単元の評価規準	知 技 思 感	次の運動の行い方を知らせるとともに、その動きを身に付けている。 ① 浮いて進む運動では、け伸びや初歩的な泳ぎをしている。 ② もぐりや浮く運動では、息を止めたり吐いたりしながら、いろいろなもぐり方や浮き方をしている。	① 自己の能力に適した課題を見付け、水の中の動きを身に付けるための活動を工夫しているとともに、考えたことを友達に伝えている。	① 運動に進んで取り組むとうい、きまりを守り誰とも仲よく運動をしたり、友達のを認めようとしていたり、友達のを認めようとしていたり、水泳運動の心得を守って安全に泳いでいる。				

小学校 高学年 体育科 水泳運動 単元指導計画(参考)

単元の目標	1	2	3	4	5	6	授業づくりのポイント	
知識及び技能	<p>(1) 次の運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解することにも、その技能を身に付けること。 ア クロールでは、手や足の動きに呼吸を合わせて長く泳ぐこと。 イ 平泳ぎでは、手や足の動きに呼吸を合わせて長く泳ぐこと。 ウ 安全確保につながる運動では、背浮きや浮き沈みをしながら泳いで長く泳ぐこと。</p> <p>(2) 自己の能力に適した課題の解決の仕方や記録への挑戦の仕方を工夫することにも、自己や仲間を考えたとともに、自己や仲間を助けること。</p> <p>(3) 運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、水泳運動の心得を守って安全に気を配ったりすること。</p>						健康観察・本時のねらいの確認・準備運動	
思考力、判断力、表現力等	<p>学びに向かう力、人間性等</p>							
0分	オリエンテーション							
10分	○知識・技能 クロール、平泳ぎ、安全確保につながる運動							
20分	○水泳運動の心得 プールの底・水面などに危険物が無いことを確認する ・自己の体の調子を確かめながら泳ぐ ・仲間の体調にも気を付ける ○練習場所やレーンの使い方の補助の仕方などの約束を守り、仲間と助け合うこと ○課題を気付いたり、解決方法を工夫したりする際、仲間の考えや取組を認めること ○用具の準備や片づけなど、分担された役割を果たすこと ○グループ分け ○諸注意	【初歩的な泳ぎ】 ・宝探し ・ビート板とんじやんけん ・プールの底・水面などに危険物が無いことを確認する ・自己の体の調子を確かめながら泳ぐ 【安全確保につながる運動】 ○水中での体の操作 「3から5回程度を目安にした浮き沈み」 ○背浮き 「10秒から20秒を目安にした背浮き」 【クロール】 ○手や足の動かし方(面かぶりのクロール) ○呼吸の仕方 【平泳ぎ】 ○手や足の動かし方(面かぶりの平泳ぎ) ○呼吸の仕方 【課題別グループ】 <基本のグループ> ○安全確保につながる運動、初歩的な泳ぎ ○クロール ○平泳ぎ 【学習の振り返り】	水慣れ(リズム水泳)					
30分								
40分								
50分								
60分								
学習の流れ								
評価機会	1	2	3	4	5	6		
知識	①②③		①②③					
技能								
思考	①			①				
態度	①			①				
単元の評価規準	<p>次の運動の行い方を理解していることにも、その技能を身に付けている。 ①水中では、手や足の動きに呼吸を合わせて長く泳いでいる。 ②平泳ぎでは、手や足の動きに呼吸を合わせて長く泳いでいる。 ③安全確保につながる運動では、背浮きや浮き沈みをしながら泳いで長く泳いでいる。</p> <p>①自己の能力に適した課題の解決の仕方や記録への挑戦の仕方を工夫することにも、自己や仲間を考えたとともに、自己や仲間を助けること。</p> <p>②運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしようとしていたり、仲間の考えや取組を認めようとしていたり、水泳運動の心得を守って安全に気を配ったりしている。</p>						<p>【初歩的な泳ぎ】 ・宝探し ・ビート板とんじやんけん ・プールの底・水面などに危険物が無いことを確認する ・自己の体の調子を確かめながら泳ぐ 【安全確保につながる運動】 ○水中での体の操作 「3から5回程度を目安にした浮き沈み」 ○背浮き 「10秒から20秒を目安にした背浮き」 【クロール】 ○手や足の動かし方(面かぶりのクロール) ○呼吸の仕方 【平泳ぎ】 ○手や足の動かし方(面かぶりの平泳ぎ) ○呼吸の仕方 【課題別グループ】 <基本のグループ> ○安全確保につながる運動、初歩的な泳ぎ ○クロール ○平泳ぎ 【学習の振り返り】</p> <p>【初歩的な泳ぎ】 ・宝探し ・ビート板とんじやんけん ・プールの底・水面などに危険物が無いことを確認する ・自己の体の調子を確かめながら泳ぐ 【安全確保につながる運動】 ○水中での体の操作 「連続ボビング」「手を付けた呼吸」 ○背浮き 「手や足をつけた背浮き」 【クロール】 ○呼吸のタイミング「1, 2, パウ, 4」 【平泳ぎ】 ○呼吸のタイミング「スー、パウ, ボン、スー」 【課題別グループ】 <基本のグループ> ○安全確保につながる運動、初歩的な泳ぎ ○クロール ○平泳ぎ 【学習の振り返り】</p>	<p>単元のまとめ</p> <p>6</p> <p>観察、学習カード(振り返り等)</p> <p>観察、学習カード(振り返り等)</p> <p>観察、学習カード(振り返り等)</p>

中学校 第1・2学年 体育科 水泳 単元指導計画(参考)

単元目標	1	2	3	4	5	6
知識及び技能	(1)水の運動について、起陸の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、水泳の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解することにも、泳法を身に付けること。 ア クロールでは、手足の動き、呼吸のバランスをとり速く泳ぐこと。 イ 平泳ぎでは、手足の動き、呼吸のバランスをとり長く泳ぐこと。 ウ 素泳ぎでは、手足の動き、呼吸のバランスをとり泳ぐこと。 エ バタフライでは、手足の動き、呼吸のバランスをとり泳ぐこと。	(2)泳法などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫することにも、自己の考えたとを他者に伝えること。	(3)水泳に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守らうとすること、分担当役割を果たそうとすること、一人一人の速いに応じた課題や挑戦を認めようとするなど、水泳の事故防止に関する心構えを遵守するなど	健康観察・本時のねらいの確認、準備運動(各グループごとに泳法に合わせた運動)	グループごとに生徒が中心となって準備運動	授業づくりのポイント
思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等					
0分	オリエンテーション ○運動の特性や成り立ち、歴史、 オリエンピック、パリンピックなどの 関連					
10分	○知識					
20分	○起陸の特性や成り立ち、歴史、 オリエンピック、パリンピックなどの 関連					
30分	○起陸の特性や成り立ち、歴史、 オリエンピック、パリンピックなどの 関連					
40分	○起陸の特性や成り立ち、歴史、 オリエンピック、パリンピックなどの 関連					
50分	○起陸の特性や成り立ち、歴史、 オリエンピック、パリンピックなどの 関連					
60分	○起陸の特性や成り立ち、歴史、 オリエンピック、パリンピックなどの 関連					
学習の流れ	1. 準備運動 2. 水泳の歴史や成り立ち、水泳の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解することにも、泳法を身に付けること。 3. 水泳の歴史や成り立ち、水泳の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解することにも、泳法を身に付けること。 4. 水泳の歴史や成り立ち、水泳の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解することにも、泳法を身に付けること。 5. 水泳の歴史や成り立ち、水泳の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解することにも、泳法を身に付けること。 6. 水泳の歴史や成り立ち、水泳の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解することにも、泳法を身に付けること。	健康観察・本時のねらいの確認、準備運動(各グループごとに泳法に合わせた運動)	グループごとに泳法に合わせた運動	グループごとに泳法に合わせた運動	グループごとに泳法に合わせた運動	グループごとに泳法に合わせた運動
評価機会	1	2	3	4	5	6
知	①	②	③	④	⑤	⑥
技			①②	③		
思	①			②		
態			①	②	③	
単元の評価規程	知 ① 泳法を身に付けて、続けて長く泳いだり、速く泳いだり、競い合ったりする楽しさや喜びを味わうことのできる運動であることを、言ったり、書き出したりしている。 ② 水泳の各種目において用いられる技術の名称や運動局面の名称があり、それぞれの技術や局面で、動きを高めるための技術的なポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。	知 ① 泳法を身に付けて、続けて長く泳いだり、速く泳いだり、競い合ったりする楽しさや喜びを味わうことのできる運動であることを、言ったり、書き出したりしている。 ② 水泳の各種目において用いられる技術の名称や運動局面の名称があり、それぞれの技術や局面で、動きを高めるための技術的なポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。	知 ① 泳法を身に付けて、続けて長く泳いだり、速く泳いだり、競い合ったりする楽しさや喜びを味わうことのできる運動であることを、言ったり、書き出したりしている。 ② 水泳の各種目において用いられる技術の名称や運動局面の名称があり、それぞれの技術や局面で、動きを高めるための技術的なポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。	知 ① 泳法を身に付けて、続けて長く泳いだり、速く泳いだり、競い合ったりする楽しさや喜びを味わうことのできる運動であることを、言ったり、書き出したりしている。 ② 水泳の各種目において用いられる技術の名称や運動局面の名称があり、それぞれの技術や局面で、動きを高めるための技術的なポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。	知 ① 泳法を身に付けて、続けて長く泳いだり、速く泳いだり、競い合ったりする楽しさや喜びを味わうことのできる運動であることを、言ったり、書き出したりしている。 ② 水泳の各種目において用いられる技術の名称や運動局面の名称があり、それぞれの技術や局面で、動きを高めるための技術的なポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。	知 ① 泳法を身に付けて、続けて長く泳いだり、速く泳いだり、競い合ったりする楽しさや喜びを味わうことのできる運動であることを、言ったり、書き出したりしている。 ② 水泳の各種目において用いられる技術の名称や運動局面の名称があり、それぞれの技術や局面で、動きを高めるための技術的なポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。

中学校 第3学年 体育科 水泳 単元指導計画(参考)

単元の目標	1	2	3	4	5	6	
知識及び技能	次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解することを、効果的に泳ぐことができるようにする。 ア クロールでは、手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり速く泳いだりすることができるようにする。 イ 平泳ぎでは、手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり速く泳いだりすることができるようにする。 エ バタフライでは、手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで泳ぐことができるようにする。 オ 複数の泳法で泳ぐこと、又は「リレー」をすることが出来るようにする。	泳法などの自己や仲間課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたとを他者に伝えることができるようにする。	泳法に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする事、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする事など、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保することができるようにする。	健康観察・本時のねらいの確認・準備運動(各グループごとに泳法に合わせた運動)	グループごとに生徒が中心となって準備運動	授業づくりのポイント ①3つの資質・能力の内容をバランスよく指導する。 ②自主的な学習を促すための知識を効果的に理解できるように、専門家の指導の機会を設ける。 ③各泳法における距離は、クロール50～200m、平泳ぎ50～200m、背泳ぎ25～50m、バタフライ25～50m程度を目安に指導する。 ④複数で泳ぐ場台には、2～4種目を選択し続けて泳げるよう指導する。 ⑤リレーにおける距離は100m～200m程度を目安に指導する。 ⑥取得した知識を基により良い解決法を比較したり、活動を振り返らせ学習成果を分析する活動の提示の仕方を指導する。 ⑦中間への助言と具体的な取り組み方を結び付けて指導する。	
思考力、判断力、表現力等	泳法に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする事、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする事など、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保することができるようにする。	泳法に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする事、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする事など、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保することができるようにする。	泳法に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする事、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする事など、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保することができるようにする。	泳法に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする事、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする事など、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保することができるようにする。	泳法に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする事、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする事など、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保することができるようにする。	泳法に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする事、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする事など、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保することができるようにする。	
時	0分	10分	20分	30分	40分	50分	
学習の流れ	①知識 ・技術の名称や行い方 ・クロール、平泳ぎ→ローリング ・平泳ぎ→バタフライ姿勢 ・各種目で用いている技術の名	①知識 ・クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライ、複数の泳法で泳ぐこと(又はリレー、スタート及びターン) ○準備する体力 短距離泳→筋力 長距離泳→全身持久力 ○水泳の事故防止に関する心得 体力・技術に気づいて泳ぐ 潜水の危険性 溺れている人の対処法 ○健康・安全の確保 水泳や気温、水に入る時間 用具を取り扱う、練習や技術の程度に応じた練習、自己や仲間の安全、フットワークに注意 ○準備運動を伴った泳法で泳ぐこと、自己の学習方法を工夫すること	①知識 ・クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライ、複数の泳法で泳ぐこと(又はリレー、スタート及びターン) ○準備する体力 短距離泳→筋力 長距離泳→全身持久力 ○水泳の事故防止に関する心得 体力・技術に気づいて泳ぐ 潜水の危険性 溺れている人の対処法 ○健康・安全の確保 水泳や気温、水に入る時間 用具を取り扱う、練習や技術の程度に応じた練習、自己や仲間の安全、フットワークに注意 ○準備運動を伴った泳法で泳ぐこと、自己の学習方法を工夫すること	①知識 ・クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライ、複数の泳法で泳ぐこと(又はリレー、スタート及びターン) ○準備する体力 短距離泳→筋力 長距離泳→全身持久力 ○水泳の事故防止に関する心得 体力・技術に気づいて泳ぐ 潜水の危険性 溺れている人の対処法 ○健康・安全の確保 水泳や気温、水に入る時間 用具を取り扱う、練習や技術の程度に応じた練習、自己や仲間の安全、フットワークに注意 ○準備運動を伴った泳法で泳ぐこと、自己の学習方法を工夫すること	①知識 ・クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライ、複数の泳法で泳ぐこと(又はリレー、スタート及びターン) ○準備する体力 短距離泳→筋力 長距離泳→全身持久力 ○水泳の事故防止に関する心得 体力・技術に気づいて泳ぐ 潜水の危険性 溺れている人の対処法 ○健康・安全の確保 水泳や気温、水に入る時間 用具を取り扱う、練習や技術の程度に応じた練習、自己や仲間の安全、フットワークに注意 ○準備運動を伴った泳法で泳ぐこと、自己の学習方法を工夫すること	①知識 ・クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライ、複数の泳法で泳ぐこと(又はリレー、スタート及びターン) ○準備する体力 短距離泳→筋力 長距離泳→全身持久力 ○水泳の事故防止に関する心得 体力・技術に気づいて泳ぐ 潜水の危険性 溺れている人の対処法 ○健康・安全の確保 水泳や気温、水に入る時間 用具を取り扱う、練習や技術の程度に応じた練習、自己や仲間の安全、フットワークに注意 ○準備運動を伴った泳法で泳ぐこと、自己の学習方法を工夫すること	①知識 ・クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライ、複数の泳法で泳ぐこと(又はリレー、スタート及びターン) ○準備する体力 短距離泳→筋力 長距離泳→全身持久力 ○水泳の事故防止に関する心得 体力・技術に気づいて泳ぐ 潜水の危険性 溺れている人の対処法 ○健康・安全の確保 水泳や気温、水に入る時間 用具を取り扱う、練習や技術の程度に応じた練習、自己や仲間の安全、フットワークに注意 ○準備運動を伴った泳法で泳ぐこと、自己の学習方法を工夫すること
評価機会	1	2	3	4	5	6	
知	①	②	③	④	⑤	⑥	
技							
思	①						
態							
単元の評価規程	①水泳の各種目で用いられる技術の名称があり、それぞれの技術には、効果的に泳ぐためのポイントがあることについて言ったり、書き出ししてしている。 ②泳法と動きさせた補助運動や部分練習を繰り返したり、継続して行ったりすることで、結果として体力を高めることができることについて、学習した具体例を挙げている。 ③自己の動きや仲間の動きを分析するには、自己観察や他者観察などの方法があることについて、学習した具体例を挙げている。	①水泳の各種目で用いられる技術の名称があり、それぞれの技術には、効果的に泳ぐためのポイントがあることについて言ったり、書き出ししてしている。 ②泳法と動きさせた補助運動や部分練習を繰り返したり、継続して行ったりすることで、結果として体力を高めることができることについて、学習した具体例を挙げている。 ③自己の動きや仲間の動きを分析するには、自己観察や他者観察などの方法があることについて、学習した具体例を挙げている。	①水泳の各種目で用いられる技術の名称があり、それぞれの技術には、効果的に泳ぐためのポイントがあることについて言ったり、書き出ししてしている。 ②泳法と動きさせた補助運動や部分練習を繰り返したり、継続して行ったりすることで、結果として体力を高めることができることについて、学習した具体例を挙げている。 ③自己の動きや仲間の動きを分析するには、自己観察や他者観察などの方法があることについて、学習した具体例を挙げている。	①水泳の各種目で用いられる技術の名称があり、それぞれの技術には、効果的に泳ぐためのポイントがあることについて言ったり、書き出ししてしている。 ②泳法と動きさせた補助運動や部分練習を繰り返したり、継続して行ったりすることで、結果として体力を高めることができることについて、学習した具体例を挙げている。 ③自己の動きや仲間の動きを分析するには、自己観察や他者観察などの方法があることについて、学習した具体例を挙げている。	①水泳の各種目で用いられる技術の名称があり、それぞれの技術には、効果的に泳ぐためのポイントがあることについて言ったり、書き出ししてしている。 ②泳法と動きさせた補助運動や部分練習を繰り返したり、継続して行ったりすることで、結果として体力を高めることができることについて、学習した具体例を挙げている。 ③自己の動きや仲間の動きを分析するには、自己観察や他者観察などの方法があることについて、学習した具体例を挙げている。	①水泳の各種目で用いられる技術の名称があり、それぞれの技術には、効果的に泳ぐためのポイントがあることについて言ったり、書き出ししてしている。 ②泳法と動きさせた補助運動や部分練習を繰り返したり、継続して行ったりすることで、結果として体力を高めることができることについて、学習した具体例を挙げている。 ③自己の動きや仲間の動きを分析するには、自己観察や他者観察などの方法があることについて、学習した具体例を挙げている。	
単元の評価規程	①選択した泳法について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、得意や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えられている。 ②自己や仲間の技術的課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを述べている。 ③水泳の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための仲間の方を挙げている。	①選択した泳法について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、得意や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えられている。 ②自己や仲間の技術的課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを述べている。 ③水泳の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための仲間の方を挙げている。	①選択した泳法について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、得意や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えられている。 ②自己や仲間の技術的課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを述べている。 ③水泳の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための仲間の方を挙げている。	①選択した泳法について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、得意や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えられている。 ②自己や仲間の技術的課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを述べている。 ③水泳の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための仲間の方を挙げている。	①選択した泳法について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、得意や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えられている。 ②自己や仲間の技術的課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを述べている。 ③水泳の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための仲間の方を挙げている。	①選択した泳法について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、得意や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えられている。 ②自己や仲間の技術的課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを述べている。 ③水泳の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための仲間の方を挙げている。	①選択した泳法について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、得意や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えられている。 ②自己や仲間の技術的課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを述べている。 ③水泳の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための仲間の方を挙げている。
単元の評価規程	①水泳の学習に自主的に取り組むようとしている。 ②一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。 ③水の事故防止の心得を遵守するなど健康・安全を確保している。	①水泳の学習に自主的に取り組むようとしている。 ②一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。 ③水の事故防止の心得を遵守するなど健康・安全を確保している。	①水泳の学習に自主的に取り組むようとしている。 ②一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。 ③水の事故防止の心得を遵守するなど健康・安全を確保している。	①水泳の学習に自主的に取り組むようとしている。 ②一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。 ③水の事故防止の心得を遵守するなど健康・安全を確保している。	①水泳の学習に自主的に取り組むようとしている。 ②一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。 ③水の事故防止の心得を遵守するなど健康・安全を確保している。	①水泳の学習に自主的に取り組むようとしている。 ②一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。 ③水の事故防止の心得を遵守するなど健康・安全を確保している。	①水泳の学習に自主的に取り組むようとしている。 ②一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。 ③水の事故防止の心得を遵守するなど健康・安全を確保している。

清瀬市立学校における水泳指導の在り方検討委員会

(令和5年3月31日現在)

委員長	武蔵丘短期大学 順天堂大学	名誉学長 名誉教授	川合 武司
副委員長	東京都多摩教育事務所指導課	統括指導主事	鈴木 輝
校長会代表	清瀬第六小学校 (校長会長)	校長	菊地 俊一
校長会代表	清瀬第四小学校	校長	長沼 正城
校長会代表	清瀬第四中学校	校長	中西 規人
保護者代表	清瀬第四小学校学校支援本部	コーディネーター	石垣 沙織
保護者代表	清瀬第四中学校保護者会	会長	根本 知佳
オブザーバー	セントラルスポーツ株式会社 (令和3・4年度委託業者)		
清瀬市 教育委員会 事務局	教育部	参事	紅林 兼一
	教育部教育総務課	課長	宮本 央子
	教育部教育指導課	副参事	馬場 一平
	教育部教育指導課	指導主事	柴崎 大輔
	教育部教育指導課	指導主事	宮野 将史
	教育部教育総務課庶務係	主事	若野 俊佑

清瀬市立学校における民間施設を活用した水泳指導単元計画作成部会

(令和5年3月31日現在)

小学校代表	清瀬第四小学校	主幹教諭	横山 賢作
小学校代表	清瀬第八小学校	主任教諭	北川 修司
中学校代表	清瀬第五中学校	主任教諭	角屋 仁志
中学校代表	清瀬第五中学校	教諭	池田 莉那
事務局	教育委員会教育部教育指導課	指導主事	宮野 将史

**清瀬市立学校における
水泳指導基本指針**

－ 民間プール施設の活用を見据えて －

令和5年3月 発行

発行者 清瀬市教育委員会教育部教育指導課

所在地 〒204-8511

東京都清瀬市中里5-842

電 話 042-497-5111 (代表)

